

伊丹福音ルーテル教会 聖霊降臨後第五主日礼拝のしおり

2022年7月10日

前奏

招きのことば：詩編 25 編 4-11 節

主よ、あなたの道をわたしに示し あなたに従う道を教えてください。

あなたのまことにわたしを導いてください。| 教えてください あなたはわたしを救ってください
る神。絶えることなくあなたに望みをかけています。

主よ思い起こしてください あなたのとしへの隣れみと慈しみを。| わたしの若いときの罪と
背きは思い起こさず 慈しみ深く、御恵みのために 主よ、わたしを御心に留めてください。

主は恵み深く正しくいまし 罪人に道を示してください。| 裁きをして貧しい人を導き 主
の道を貧しい人に教えてください。| その契約と定めを守る人にとって 主の道はすべて、
慈しみとまこと。| 主よ、あなたの御名のために 罪深いわたしをお赦してください。

罪の悔い改めと赦しのことば

会衆： 私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、ほんとうにごめんなさい。

私たちは祈ります。私たちを救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。（短い黙禱を持ちましょう）

牧師： 何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言 します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。**アーメン。**

使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりて宿り、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、

陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天にのぼり、父なる全能の神の右に座したまわり。生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、限りなきいのちを信ず。 **アーメン**。

祈り

愛とあわれみに満ちておられる 私たちの父なる神様、心から感謝をいたします。今朝も共に礼拝にあずかり、罪の赦しをいただき、新しいいのちをいただいて 一週間を始めます。

私たちは自分の姿があまり見えないのに、人の姿は よく見えます。そして、正しくない姿や優しくない、知恵のない姿が気になって、心の中で人を裁いています。しかし神様は、さらに厳しい目で私たちの本質を見ていらっしゃるにもかかわらず、イエス様によって私たちを赦して、ご自分の子どもとし、新しいいのちを与えてくださいました。どうぞ私たちがイエス様への感謝の思いをもって、人を裁かないで、むしろ人を生かし、不完全な私たちお互いが赦しあって、心をあわせて共に幸せをつくっていくことができますように、導いてください。

新型コロナ・ウィルスの感染拡大を防ぐために、まだ緊張感を保たなければなりません。その中でも すべて御手にゆだね安心して、あなたの子どものように 生き生きと生きる日々を与えてください。

この祈りを、私たちの救い主であり 主である イエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン**

使徒書朗読：コロサイの信徒への手紙1章1-14節

神の御心によってキリスト・イエスの使徒とされたパウロと兄弟テモテから、コロサイにいる聖なる者たち、キリストに結ばれている忠実な兄弟たちへ。わたしたちの父である神からの恵みと平和が、あなたがたにあるように。わたしたちは、いつもあなたがたのために祈り、わたしたちの主イエス・キリストの父である神に感謝しています。あなたがたがキリスト・イエスにおいて持っている信仰と、すべての聖なる者たちに対して抱いている愛について、聞いたからです。それは、あなたがたのために天に蓄えられている希望に基づくものであり、あなたがたは既にこの希望を、福音という真理の言葉を通して聞きました。あなたがたにまで伝えられたこの福音は、世界中至るところでそうであるように、あなたがたのところでも、神の恵みを聞いて真に悟った日から、実を結んで成長しています。あなたがたは、この福音を、わたしたちと共に仕えている仲間、愛するエパfrasから学びました。彼は、あなたがたのためにキリストに忠実に仕える者であり、また、“霊”に基づくあなたがたの愛を知らせてくれた人です。こういうわけで、そのことを聞いたときから、わたしたちは、絶えずあなたがたのために祈り、願っています。どうか、“霊”によるあらゆる知恵と理解によって、神の御心を十分悟り、すべての点で主に喜ばれるように主に従って歩み、あらゆる善い業を行って実を結び、神をますます深く知るように。そして、神の栄光の力に従い、あらゆる力によって強められ、どんなことも根気強く耐え忍ぶように。喜びをもって、光の中にある聖なる者たちの相続分に、あなたがたがあずかれるようにしてくださった御父に感謝するように。御父は、わたしたちを闇の力か

ら救い出して、その愛する御子の支配下に移してくださいました。わたしたちは、この御子によって、贖い、すなわち罪の赦しを得ているのです。

福音書朗読：ルカによる福音書 10章 25-37 節

すると、ある律法の専門家が立ち上がり、イエスを試そうとして言った。「先生、何をしたら、永遠の命を受け継ぐことができるでしょうか。」イエスが、「律法には何と書いてあるか。あなたはそれをどう読んでいるか」と言われると、彼は答えた。『心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい、また、隣人を自分のように愛しなさい』とあります。」イエスは言われた。「正しい答えだ。それを実行しなさい。そうすれば命が得られる。」しかし、彼は自分を正当化しようとして、「では、わたしの隣人とはだれですか」と言った。イエスはお答えになった。「ある人がエルサレムからエリコへ下って行く途中、追いはぎに襲われた。追いはぎはその人の服をはぎ取り、殴りつけ、半殺しにしたまま立ち去った。ある祭司がたまたまその道を下って来たが、その人を見ると、道の向こう側を通って行った。同じように、レビ人もその場所にやって来たが、その人を見ると、道の向こう側を通って行った。ところが、旅をしていたあるサマリア人は、そばに来ると、その人を見て隣れに思い、近寄って傷に油とぶどう酒を注ぎ、包帯をして、自分のろばに乗せ、宿屋に連れて行って介抱した。そして、翌日になると、デナリオン銀貨二枚を取り出し、宿屋の主人に渡して言った。『この人を介抱してください。費用がもっとかかったら、帰りがけに払います。』さて、あなたはこの三人の中で、だれが追いはぎに襲われた人の隣人になったと思うか。」律法の専門家は言った。「その人を助けた人です。」そこで、イエスは言われた。「行って、あなたも同じようにしなさい。」

讃美歌 239 番

- 1 さまよう人々 立ち返りて 天(あめ)なる御国の 父を見よや
罪とが くやめる 心こそは 父より与うる たまものなれ
- 2 さまよう人々 立ち返りて 父なる御神の み前に行き
まことの悔いをば 言い表せ 世人は知らねど 知りたまえり
- 3 さまよう人々 立ち返りて 主イエスの御許(みもと)に とくひれ伏せ
わが主は隣れみ み手をのべて こぼるる涙を 拭いたまわん
- 4 さまよう人々 立ち返りて 十字架の上なる イエスを見よや
血潮の滴る み手をひろげ 「生命をうけよ」と 招きたもう アーメン

説教：「あなたも同じようにしなさい」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

何をしたら永遠の命を受け継ぐことができるのでしょうか、とイエス様に尋ねた人がいました。永遠の命を受け継ぎたい、という強い願いがあったことがわかります。この人にとって幸せとは、この世で終わってしまう幸せだけではなく、死んだ後も滅んでしまわないで、心豊かに生きることだったのでしょう。誰もが幸せを願っています。しかし誰もが幸せを得ることの確信がないので、幸せを探しています。人は皆、不幸せなところから脱出したい、幸せなところに留まっていたい、今だけではなく将来にかけて幸せを得ることができる確証が欲しいのです。

この質問をイエス様にしたのはひとりの律法の専門家でした。普段からイスラエルの人々の生活の規律を教え、また、神様の前にどうあるべきかを教えていた立派な人でした。どうすれば永遠の命が与えられるか、いつも人に教えていた立場の人だったと思われます。神様を全身全霊で愛して、隣人を大切にして生きていくことです。もしかしたらみんなの前でイエス様に質問したのは、イエス様から、あなたは立派な人です、だからあなたは大丈夫です、とお墨付きをいただきたかったのかもしれない。

ちょうどイエス様は七十二人のお弟子たちを方々の町や村に遣わしたところでした。今日の聖書の個所の少し前を見ますと、遣わされた七十二人は出て行って、これから救い主のイエス様が来られる、神の国が近づいている、と告げ知らせ、成果をあげて帰ってきました。イエス様は喜ばれて、旧約聖書の時代からこれまでの長い間、救い主を待ち望んでいた人々が見聞きできなかったことを、今や人々は目の当たりにしています、と言われました。そしてイエス様は神様に感謝をしておられます。それは、七十二人の弟子たちが経験してきたように、悔い改めて罪の赦しを得た人々は、自分には知恵がある、自分は賢いものだと言っている高慢な人々ではなく、自分にも神様が知らせを届けてくださった、感謝なことだ、と謙遜に、そう、幼子のように受け取った人々だったからです。

高慢な人ではなく、謙遜な人が、イエス様の方に向きを変え悔い改めて、罪の赦しを受けたことをイエス様は喜んでおられました。そこに、この律法の専門家が来ました。そして、どうすれば永遠の命を受け継ぐことができますか、と尋ねました。

イエス様は、あなたは律法の専門家ではないか、あなたは律法にはどう書いてあると読んでいるか、とお尋ねになりました。彼はいつも考えたり、教えたりしていることを答えました。「イエス様、それは心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい、ということ、そして、隣人を自分と同じように愛しなさい、ということです。」イエス様は彼に、「それは正しい答えだから、そのように実行したら命が得られます」と言いました。彼は、イエス様から見ると自分は、どうしたら永遠の命を得ることができるか知識はあるが実行していないと思われるのではないかと、思って、自分はそれぐらいのことは全部毎日守っていることを証明したくなったのでしょう。イエス様に、では私の隣人は誰ですか、と尋ねました。

イエス様はそのとき彼に、たとえを話し、また彼に質問し、そして彼の答えを聞いて最後の一言を残されました。そのたとえは有名な「よきサマリヤ人」 Good Samaritan のお話しです。彼も、そこに居合わせた人々もじっと聞き入っていました。聞いているとお話の途中で、イスラエルの人が昔から神様の裏切り者と思ってあまり快く思っていなかったサマリヤの人が出てきたので驚いたかもしれません。

丘の上の町エルサレムからエリコに通じる道は下り道でした。盗賊がよく出る危険な道でした。案の定、ひとりの旅人が襲われて乱暴を受け、みぐるみはがれて死にそうになったまま置き去りにされました。そこにいつもエルサレムの神殿で神様と人々の間を取り持つ働きをしていた祭司が通りました。次に、祭司と同じような働きをするレビ人という人も通りました。ふたりとも倒れた人を見ましたが、道の反対側をわざわざ通って去っていきました。

イエス様に質問した律法学者は、ここまで聞いて、祭司やレビ人は神殿で神様に仕えているだけだ、律法学者は違つぞ、人々に教えているのだから、と思ったかもしれません。次は律法学者が通って彼を助けた、というお話になるのかな、と期待したかもしれません。しかし登場したのは蔑んでいたサマリヤ人でした。旅の途中で倒れている人を見て、近づいて心動かされ傷の応急手当てをして、持ち上げて自分のろばに乗せました。宿屋につくと寝ずに介抱し、翌日多額のお金を主人に渡して、帰り道で立ち寄るからそれまで介抱してほしい、この人が助かるためなら費用はいくらかかってもよい、足りないならそのとき支払う、と約束しました。イエス様はここまでお話になって、律法学者に尋ねました。誰が襲われた人の隣人になりましたか。

律法学者は、隣人は誰ですか、と尋ねました。私は愛すべき隣人はみな愛しています。何が足りないのですか、という気持ちでした。しかし、イエス様は、この人の隣人になったのは誰ですか、と聞かれました。もちろん律法学者はサマリヤ人を愛していません。同胞の祭司やレビ人よりもサマリヤ人が正しいということは認められないことです。ですから、サマリヤ人です、と答えられず、その人を助けた人です、としか答えられませんでした。イエス様はこれまで見えていなかった何かを気付かせてくださいました。自分は自分で決めた人を大事にして、愛することで満足していました。それで私に何が足りないのですか、と高慢にもイエス様に尋ねていたことに気付いたはずです。イエス様は、あなたはよくわかっている、あなたも行って同じようにしなさい、と言われました。衝撃的なことばですね。

イエス様は、この律法学者に大切なことを教えました。自分はできている、自分は正しく生きてきた、だから自分を認めてほしい、という高慢な心では永遠の命を得ることができないことを知らされました。私たちも高慢な人に会うと、少しいやな気持ちになりますが、イエス様がこんな風に遠回しですけれどもきちんとわかるように言ってくださったことはこぞみ良さを感じます。高慢な人は自分で思う人だけを自分で思う分だけ愛していることを誇ります。しかし、神様を愛し、隣人を愛する愛には制限がないこと、むしろ無限であることに気付いて律法学者は愕然としたかもしれません。そんなことは私には無理だ、と思い知ったかもしれません。

イエス様のたとえ話を傍観者のように聞いていると、イエス様に挑戦した律法学者のみじめな結末を見た感じで終わるでしょうか。しかし、これは私たちへのメッセージでもあります。私たちは高慢にも、自分はこのままで何とかなる、と思っていませんか。いや、少しは人間性に欠け目もあるけれど、それぐらいいいではないか、人間なのだから当然ではないのか、と書いていませんか。実は、おいはぎに倒されて傷だらけで倒れているのが自分であることに気付いていないのではないのでしょうか。

そこに祭司やレビ人が来ます。しかし、助けることはできません。助けようとしません。近づいて心動かされ、予定を変えて、薬やろばや労力やお金を全部惜しみなくつぎ込んで、助かるために愛をもって全力で尽くしているサマリヤ人の姿は、あなたを大事にしているイエス様です。祭司やレビ人を頼る心をかえて、イエス様に心向けましょう。イエス様は、高慢で、中途半端な私たちをご覧になり、それでも近づいて、私たちを助け出し、すべてをなげうって私たちのかわりに十字架で死んで罪を赦し、それだけではなく、よみがえってその永遠のいのちを私たちにお与えくださいました。

自分の考えや、自分の生き方にとらわれていたり、自分の心の安定のためにあれこれ聞きかじりの知恵に信頼するのではなく、自分で自分を助けようのない姿であることを認めて、謙遜に、幼子のように、イエス様に向きをかえましょう。今日もイエス様はそのあなたの所に来てくださって、生ける神様の前であなたを赦し、あなたに新しい心を作り出してくださいます。

イエス様はあなたの隣人として、あなたを助け導いてくださいます。罪の赦しの宣言や、イエス様とひとつとされる洗礼や、イエス様の流された血、さかれた体にあずかる聖餐を通して、私たちを永遠の命のことを心配することから解放してくださいます。そうであれば、自ら人々の隣人になりましょう。自分のすべてをかけて、隣人の幸せのために力になりましょう。平和を作り出しましょう。赦されている安心や、愛に生きる喜びを人々と分かち合いましょう。イエス様が来てくださいました。今週もあなたの見えていなかったことが見えるように導かれ、見えていなかった人々を大事にして、それを実行する一週間になります。

律法の専門家は言った。「その人を助けた人です。」そこで、イエスは言われた。「行って、あなたも同じようにしなさい。」ルカによる福音書 10 章 37 節

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくださいます。アーメン

讚美歌 234A 番 献金 献金感謝の祈り

1 昔 主イエスの 播きたまいし いとも小さき 命の種
芽生え育ちて 地の果てまで その枝を張る 樹とはなりぬ

2 **歴史の流れ 旧きものを 返らぬ過去へ 押しやる間に**

主イエスの建てし 愛の国は 民より民へ 広がりゆく

3 時代の風は 吹きたけりて 思想の波は あいうてども
すべてのものを 超えて進む 主イエスの国は 永久に栄えん

4 父なる神よ み名によりて 世界の民を ひとつとなし
地をばあまねく み国とする みちかいをとく 果たしたまえ **アーメン**

主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たらせたまえ。
みこころの天になるごとく地にもならせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。
われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。
われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。
国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。

頌栄：讚美歌 541 番

父、御子、御霊のおお御神に ときわに耐えせず み栄えあれ み栄えあれ **アーメン**

祝福の言葉

仰ぎこいねがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しき
お交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、
豊かにありますように。 **アーメン**

後奏